

&lt;&lt;最終更新日：2017年03月18日&gt;&gt;

[English](#)

## 基本情報

時間割コード／Course Code	137379
開講区分(開講学期)／Semester	秋～冬学期
曜日・時間／Day and Period	月2
開講科目名／Course Name (Japanese)	日本語教育学入門B
開講科目名(英)／Course Name	Introduction to Japanese Language Teaching B
ナンバリング／Course Numbering Code	13LASC1BYD0
単位数／Credits	2.0
年次／Student Year	1,2,3,4,5,6年
担当教員／Instructor	真嶋 潤子

## 基本項目

サブタイトル／Subtitle	日本語教育学の基礎知識
セミナー番号／Seminar Number	
履修対象／Eligibility	人外法
開講時期／Schedule	
セメスター／Semester	秋～冬学期（1年次）
講義室／Room	

## 詳細情報

講義題目／Course Name	日本語教育学の基礎知識
開講言語／Language of the Course	日本語
授業形態／Type of Class	講義科目
授業の目的と概要／Course Objective	日本語教育学の基礎知識を広く身につけ、学習者を理解して、コース・デザインや教授法、教材のねらいや特徴、問題点を理解し、また日本語教育政策から見た現代的問題への認識を深める。
学習目標／Learning Goals	日本語教育の多様な対象者や国内外の現状について、現代日本社会の課題ともからめて幅広く理解するとともに、日本語教育現場での指導内容や方法についての基本的知識を身につける。

履修条件・受講条件／Requirement / Prerequisite	
授業計画／Class Plan	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本語教師の役割</li> <li>2 海外の日本語教育の現状と課題</li> <li>3 国内の日本語教育の現状と課題</li> <li>4 日本語学習者と日本語教育政策</li> <li>5 コース・デザイン (1)</li> <li>6 コース・デザイン (2)</li> <li>7 初級の教え方 (1)</li> <li>8 初級の教え方 (2)</li> <li>9 中上級の教え方 (1)</li> <li>10 中上級の教え方 (2)</li> <li>11 教材分析</li> <li>12 評価と試験</li> <li>13 いろいろな外国語教授法 (1)</li> <li>14 いろいろな外国語教授法 (2)</li> <li>15 総括</li> </ol>
授業外における学習／Independent Study Outside of Class	<p>教科書や資料を批判的に読み込み、理解する。</p> <p>日本語学習者を知るための課題を行う。 日本語や外国語の教材を調べ、課題を行う。 など</p>
教科書・教材／Textbooks	<p>高見澤孟 (2016) 『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』アスク これ以外に、授業中の配布資料と、ネット上の資料を使う予定である。</p>
参考文献／Reference	<p>荒川洋平 (2016) 『日本語教育のスタートライン 本気で日本語教師を目指す人のための入門書』スリーエーネットワーク</p> <p>遠藤織枝編 (2006) 『日本語教育を学ぶ - その歴史から現場まで』三修社</p> <p>小林ミナ (2010) 『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』(日本語教育能力検定試験に合格するためのシリーズ) アルク</p> <p>日本語教育政策マスタープラン研究会編 (2010) 『日本語教育でつくる社会-私たちの見取り図-』ココ出版</p> <p>その他、授業中に紹介します。</p>
成績評価／Grading Policy	<p>[出席数+課題・提出物+学期末試験]の結果を総合的に評価する。</p>
コメント／Other Remarks	
	海外ならびに国内における日本語教育の現状

<b>特記事項／Special Note</b>	を、歴史的変遷を踏まえて理解する。 日本語学習者の多様性を理解し、指導内容や教授法、評価、さらに第二言語習得理論についても最近の知見を含めて理解する。
<b>受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students</b>	将来日本語教師になりたい人にはもちろんのこと、特にそうは思っていない人にも「日本語教育を理解した市民」になってもらいたいと思っています。

**学生への注意書き**